


2004年度 決算説明会

富士写真フイルム株式会社
2005年4月28日

 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの注意 業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2004年度 連結業績

■ 業績概要

(単位:億円)

	2004年度		2003年度		増減	
	割合	金額	割合	金額	金額	%
国内	51.9%	13,118	52.1%	13,360	-242	-1.8
海外	48.1%	12,155	47.9%	12,307	-152	-1.2
売上高	100.0%	25,273	100.0%	25,667	-394	-1.5
営業利益	6.5%	1,644	7.2%	1,849	-205	-11.1
税引前利益	6.4%	1,623	6.4%	1,649	-26	-1.6
当期純利益	3.3%	845	3.2%	823	+22	+2.7
為替:米ドル		108円		113円		-5円
ユーロ		135円		132円		+3円

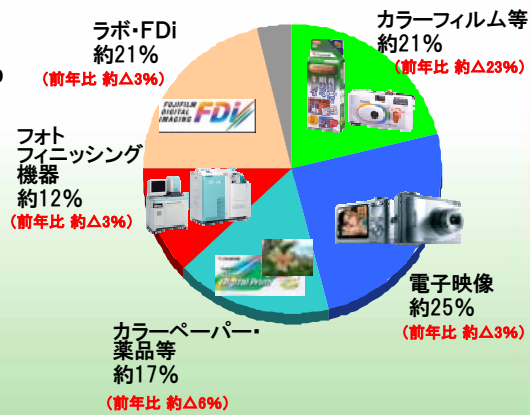
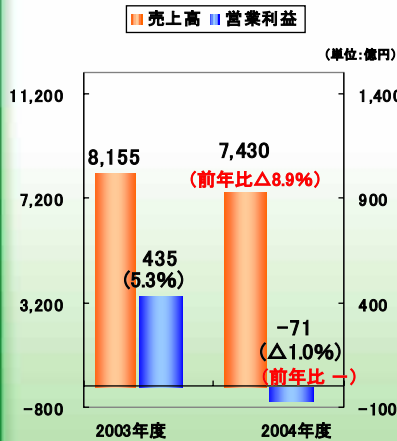
事業別セグメント情報



■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

2

事業別セグメント情報

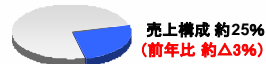


● カラーフィルム等



- 2004年度当社販売数量は、国内で前年比 約27%減、海外で約20%減。
- フィルムの需要が減少した一方、「写ルンです」は北米で堅調に推移。

● 電子映像



- 2004年度の当社デジタルカメラ販売台数は約610万台。
- 市場の成長鈍化や、供給過剰による価格競争の激化により、事業環境が悪化。
- 第4四半期にFinePix F10、A345/350を発売。新タイプのZ1は2005年5月国内発売予定。F10は、高感度・高画質などの性能面が高く評価され、好調な滑り出し。



FinePix A350



FinePix A345



FinePix F10



FinePix Z1

3

事業別セグメント情報

FUJIFILM

● カラーペーパー・薬品等



売上構成 約17%
(前年比 約△8%)

- 国内販売は数量ベースで、前年比約11%減、海外ではデジタルミニラボの普及効果等により約3%増。
- 国内フロンティア導入店のデジカメプリント比率が25%を超えるレベルにまで上昇、欧米でも着実にデジカメプリント比率が伸長。

● フォトフィニッシング機器



売上構成 約12%
(前年比 約△3%)

- 2004年度デジタルミニラボ出荷台数は、7,800台。
- 超迅速処理が可能で、フロンティア「570E」よりも価格を抑えた「550E」を発表。本年度第1四半期中の発売を予定。

フロンティア550E



デジカメプリント1件あたり、2分47秒*仕上げが可能
*プリント開始からLサイズ24枚が排紙トレイに出てくるまでの時間

4

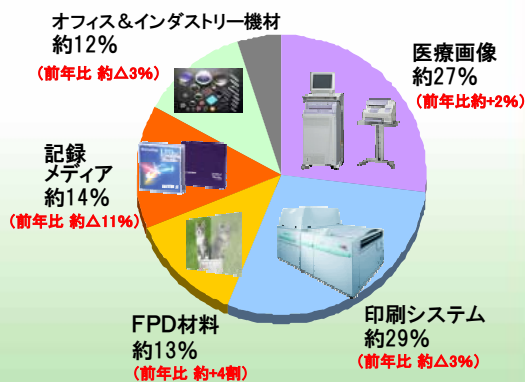
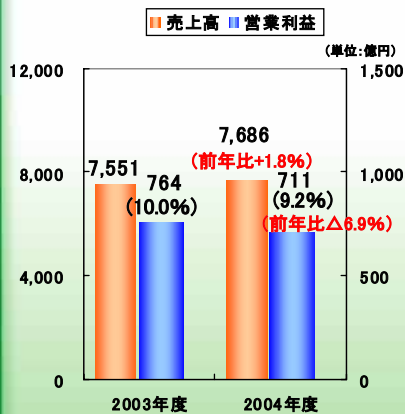
事業別セグメント情報

FUJIFILM

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

5

事業別セグメント情報

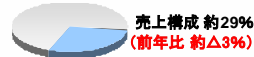
FUJIFILM

●医療画像



- FCRやドライフィルム等を含む医療機器・材料は着実な売上増を記録。
- 医療用画像情報システム「SYNAPSE」は、導入実績を順調に増加。
- 内視鏡の売上高は2桁成長を記録。国内外で営業機能を強化し、さらなる事業拡大を図る。

●印刷システム



- CTP化比率が国内で40%、海外では60%を超えると推定されるなか、CTP関連製品は堅調。
- アルミ価格の高騰により、刷版材料の原材料コストが上昇。
- Sericol社のクロージングを2月末に完了、3月より「Fujifilm Sericol」が発足。スクリーン印刷をはじめ、産業用印刷分野に事業領域拡大。
- CTPに対する旺盛な需要に対応し、2004年度以降も生産能力増強を推進。
- 上海で、印刷システム製品の販社が2005年4月1日より営業開始。急速に拡大する中国市場のニーズに対応し、トータルソリューションを提供していく。

2004年:	4月	中国工場で、サーマルCTP製造開始	
	8月	米国工場で、フォトポリマーCTP製造開始	
	10月	中国工場で、フォトポリマーCTP製造開始	
	11月	米国工場で、サーマルCTP製造開始	
2005年:	2月	オランダ工場で、フォトポリマーCTP製造開始	
2007年:	3月	中国で2番目となるPS/GTP生産工場が、蘇州で稼働開始予定	生産能力増強を急ピッチで推進中

6

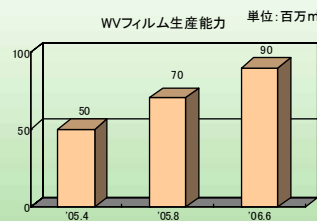
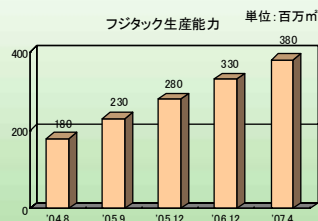
事業別セグメント情報

FUJIFILM

●フラットパネルディスプレイ材料



- フジタック、WVフィルムともに引き続き好調な販売で推移。
- 2004年度はフジタックの生産能力を増強。2004年8月の富士フィルムオプトマテリアルズ第二工場稼働により、フジタックの年間生産能力が150百万㎡から180百万㎡に。
- 熊本県に富士フィルム九州(株)を設立。第1期工事として約400億円を投資して、「フジタック」新工場2ラインを建設することを決定。
- WVフィルムも生産能力増強に向け、3工場の建設を推進。



7

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●記録メディア



- DVD・データメディアとも販売数量は好調に推移したが、価格下落の影響大。
- エンタープライズシステム「3592」用データテープの販売が堅調に推移。

●オフィス&インダストリー機材



- カメラ付き携帯向けレンズユニットの大幅な販売増もあり、レンズビジネスの売上が増加。
- 2004年度は、アテネ五輪開催による需要増加もあり、TVレンズの売上が拡大。
- アーテケミカルズ社から買収した「Microelectronic Materials」部門が、電子材料事業の売上増加に寄与。



世界最広角ズームレンズ
「DIGI POWER13」



世界最高倍率ズームレンズ
「DIGI POWER101」

8

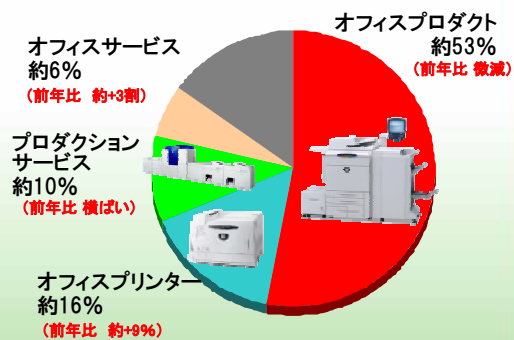
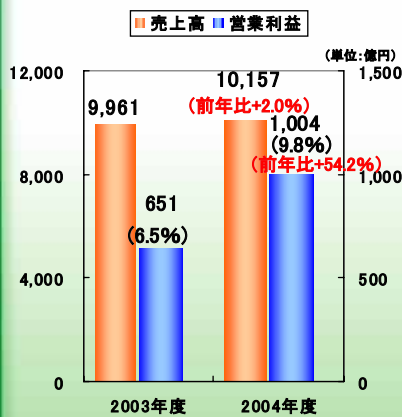
事業別セグメント情報

FUJIFILM

■ドキュメントソリューション

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

9

事業別セグメント情報

FUJIFILM

● オフィスプロダクト



売上構成 約53.96%
(前年比 微減)

- カラー複合機が国内やアジア・オセアニア地域を中心に好調。販売台数ベースで、国内は前年比約35%増、ワールドワイドでは約20%増。
- 基幹業務システムとの連携を可能にしたデジタル複合機「ApeosPort」シリーズを1月より導入。
- モノクロ複合機は、低速機から高速機までラインアップ強化し、世代交代を推進。

● オフィスプリンター



売上構成 約16%
(前年比 約+9%)

- 海外においてモノクロ・カラーともに販売が好調。特にカラー機の欧米向け輸出数量は前年比約3倍を記録。
- 国内でカラー機4機種を同時に発売し、ラインアップを強化。



ApeosPort 750 I/650 I/550 I
モノクロ複合機



ApeosPort C6550 I/C5540 I
カラー複合機



DocuPrint C3140/C3540
新製品レーザープリンター



DocuPrint C525 A
新製品レーザープリンター

10

事業別セグメント情報

FUJIFILM

● プロダクションサービス



売上構成 約10%
(前年比 横ばい)

- 三井住友VISAカードの利用明細出力に、「Xerox iGen3」24台が稼働。
- 「epicenter」を、東京、シドニー、シンガポール、上海の4拠点に設立。
- デジタル印刷業務総合支援サービス「FreeFlow」を導入し、より高度な業務支援を展開。

● オフィスサービス



売上構成 約6%
(前年比 約+3割)

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが伸長。
- 中小規模事業所向けのインターネット環境提供サービス「beat」の売上が増加。
- 戸籍電子文書管理システムの販売好調。



Xerox iGen3 Digital Production Press



DocuColor 8000 Digital Press

11

【VISION75】進捗状況



● 経営全般にわたる徹底的な構造改革

■ イメージング分野の流通・販売構造改革

<2004年度の実績>

- 富士フィルムグループのイメージング分野の国内営業機能を統合。
- 併せて特約店4社より富士フィルム製品の営業を富士フィルムグループに取り込み。
- 2004年10月に新設富士フィルムイメージングを発足、直販体制へ移行。

<2005年度以降の展開>

- 業務効率化、物流再編、人員スリム化によるコストダウン、商品提案力・営業力強化を推進。
⇒ 再編効果として2005年度約80億円を見込む。

■ 総合ラボの再編

<2004年度の実績>

- 国内不採算総合ラボの解散、商標の富士フィルムイメージングへの取り込みを推進。
▷グループ内国内総合ラボ 2004.3末 31社 → 2005.3末 22社

<2005年度以降の展開>

- 海外ラボの効率化、体制再編。

12

【VISION75】進捗状況



■ 富士ゼロックスの構造改革

①生産総コストの低減

<2004年度の実績>

- 中国(深セン、上海)への量産拠点集約による加工費改善等の効率化、部品の共通化・標準化、調達コストの低減を推進。 ⇒ 2004年度コストダウン効果:約90億円

<2005年度以降の展開>

- 2005年度末までに生産機能の約9割を中国に移行(ハイエンド機、消耗品等は国内生産を継続)。
- 外部金型メーカーとの共同により金型内製化を促進、開発リードタイムを1/4以下に短縮。
⇒ 2005年度累計コストダウン効果:約220億円

②総人件費の抑制

<2004年度の実績>

- 年金・退職金制度改革、特別転進支援制度の推進等を展開。
- 事業本部制へ移行、組織数を約40%削減、組織レイヤーをフラット化。

<2005年度以降の展開>

- 継続して人事制度改革、役職定年制度の導入。直間比率の改善等を推進し、人件費生産性を向上。
- グループ会社への移籍、特別転進支援制度のプログラム再構築。
⇒ 2005年度累計人件費効果:約120億円

13

【VISION75】進捗状況



■ 富士ゼロックスの構造改革

③情報プロセス改革

- 富士ゼロックス本社および国内版社にて販売、業績管理をはじめとした新基幹システムが2005年度上期より稼働。
 - 販売、業績管理の統合による共通管理基盤の確立。
 - 在庫低減を中心にSG&Aを削減。
- 稼働開始に伴いソフトウェアの減価償却費が新たに発生(2005年度約△90億円)。
 - ⇒ 2005年度コスト効果は初期流動費用等のNETでブレイクイーブンを見込む

14

【VISION75】進捗状況



VISION75 2004年度の主な取り組み(構造改革を除く)

ー 将来を担う新規事業の創出 ー 新たな成長戦略の構築	R & Dの 取り組みと成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「コーポレートラボ」の新設 ■ ライフサイエンス分野への進出: 自動核酸抽出システム「Quick Gene-800」を製品化 ■ 産業用デジタルイメージング分野への進出: プリント基盤用デジタル露光システムを開発 ■ 光伝送システム事業の展開: 光伝送システム「光DVIリンクシステム」を発売 ■ 2006年春の完成に向け「先進コア技術研究所」を建設予定
	M & A・他社との アライアンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ オセアニア地域における販売代理店「Hanimex Australasia」を買収 ■ 有機ELディスプレイ分野の「Vitex Systems」、画像処理分野の「TeraRecon」に出資 ■ 総予算200億円の「富士フイルム事業開発ファンド」を設立 ■ アーチケミカルズ社の半導体関連プロセス材料事業部門「Microelectronic Materials」を買収 ■ スクリーン印刷用インク、インクジェット用UVインクの分野で強みを持つ「Serico」を買収
連結経営の 強化		<ul style="list-style-type: none"> ■ EVAによる連結マネジメントシステムの導入 ■ キャッシュマネジメントシステムの導入
資本効率率の 向上		<ul style="list-style-type: none"> ■ 2005年2月1日～3月18日、自己株式の買付を実施 取得株式数:3,857千株 取得価額:14,970,869千円

15

2005年度 連結業績予想



■ 連結業績

(単位:億円)

	2005年度予想		2004年度実績		増減	
					増減額	%
売上高	100.0%	27,000	100.0%	25,273	+1,727	+6.8
営業利益	6.3%	1,700	6.5%	1,644	+56	+3.4
税引前利益	6.1%	1,640	6.4%	1,623	+17	+1.0
当期純利益	3.1%	850	3.3%	845	+5	+0.6
為替:米ドル		105円		108円		-3円
:ユーロ		135円		135円		-

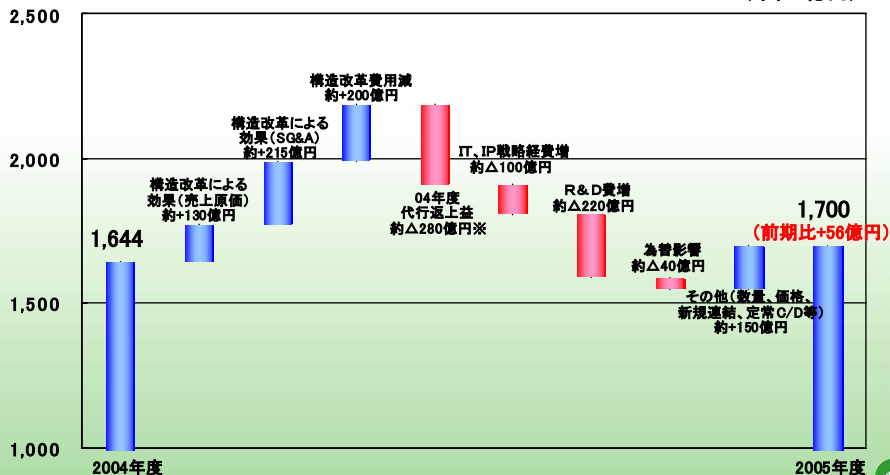
16

2005年度 連結業績予想



■ 2004年度 ~ 2005年度 営業利益増減要因

(単位:億円)

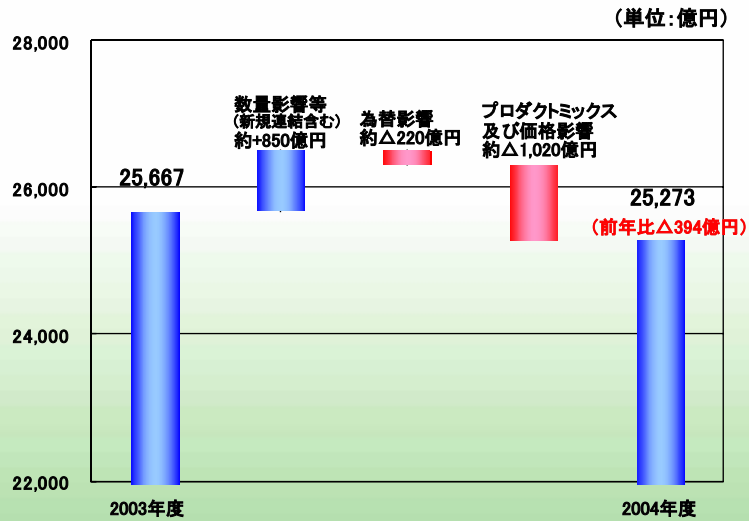


17

参考データ



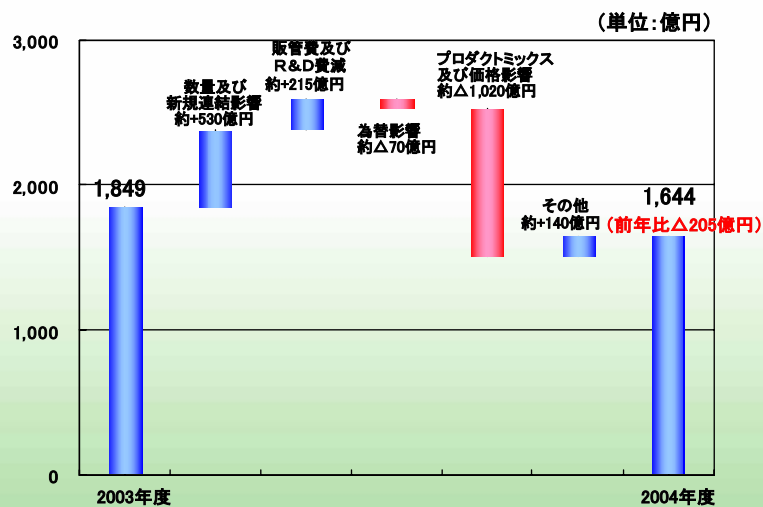
■2004年度 売上高増減要因



参考データ



■2004年度 営業利益増減要因

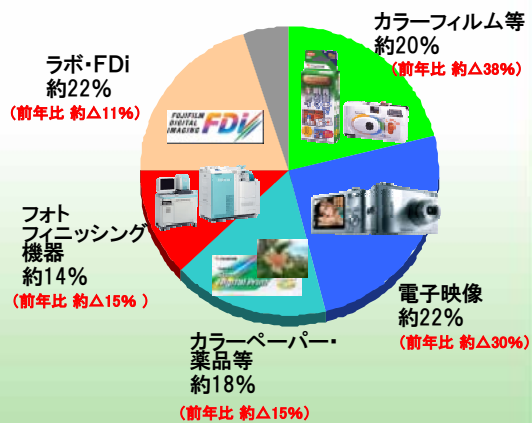
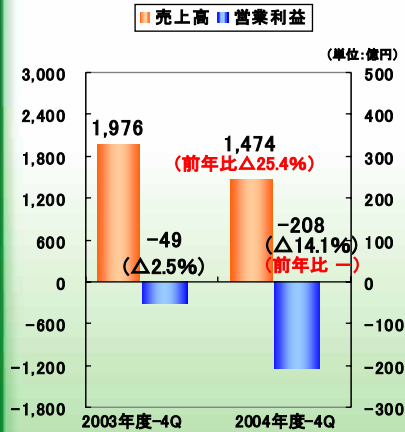


参考データ

■ イメージング ソリューション 第4四半期

売上高*・営業利益

売上構成比



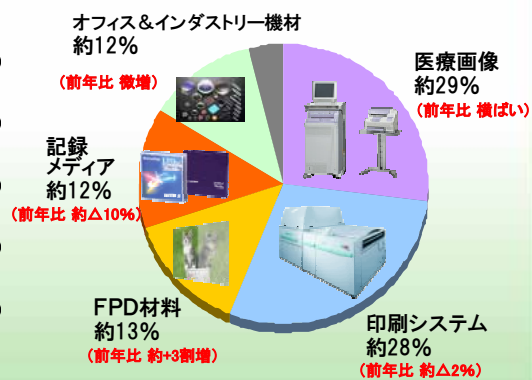
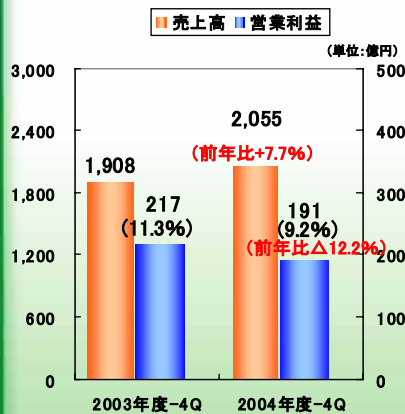
*セグメント間取引消去後

参考データ

■ インフォメーション ソリューション 第4四半期

売上高*・営業利益

売上構成比



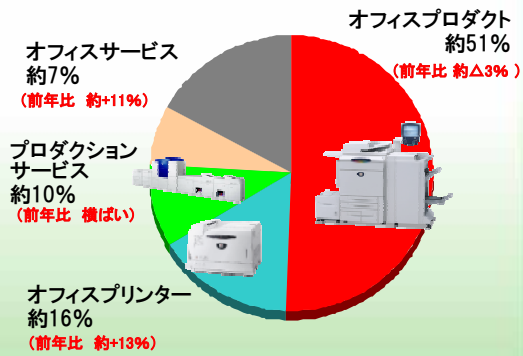
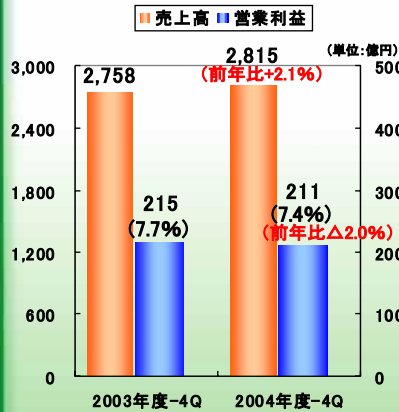
*セグメント間取引消去後

参考データ

■ドキュメントソリューション 第4四半期

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

参考データ

■設備投資、減価償却費、研究開発費

(単位: 億円)

	2005年度	2004年度		2003年度	
		4Q	4Q	4Q	4Q
イメージング	—	114	420	134	491
インフォメーション	—	331	832	231	827
ドキュメント	—	115	322	140	289
設備投資 ※	2,100	560	1,574	505	1,607
イメージング	—	163	629	145	594
インフォメーション	—	169	596	146	549
ドキュメント	—	174	598	156	583
減価償却費	—	506	1,823	447	1,726
有形固定資産の減価償却費 ※	1,400	364	1,304	325	1,246
研究開発費	1,900	416	1,680	440	1,733
<売上高比>	7.0%	6.6%	6.6%	6.6%	6.7%

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

参考データ



■ 為替、人員、株主構成

■ 為替

(単位:円)

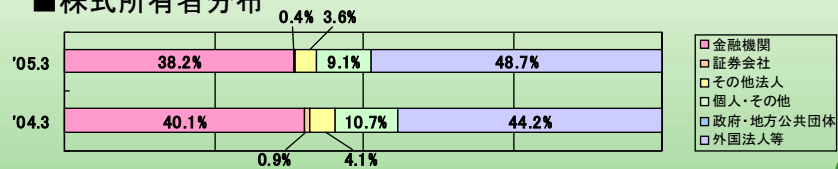
	2005年度 (予)	2004年度					2003年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	
米ドル	105	110	110	106	104	108	119	118	109	108	113
ユーロ	135	132	134	137	137	135	133	133	130	133	132

■ 期末人員

(単位:名)

	2005.3.31	2004.9.30	2004.3.31
単独	8,914	9,359	9,363
連結	75,638	74,870	73,164

■ 株式所有者分布



24



富士写真フイルム株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IR室
<http://www.fujifilm.co.jp/>